

中央小ものがたり

令和3年6月28日

大村市立中央小学校

発行 石司 貴弘

やさしく かしく たくましく

言葉は ^{ことば} しあわせをつくるために つかおう

～ 中央っ子の心を見つめる教育週間 ～

21日(月)から教育週間が始まりました。過去に起こった子どもが加害者・被害者となる悲しい事件を教訓に、「命を大切にできる心・他者への思いやりの心」などを育むために、それぞれの学校で工夫した取組を行っています。

☆命は大事なものの…わかるけど、大切にするってどういうこと？

☆思いやりの心……どうすれば思いやりの心が伝わるの？

子どもたちは「命」や「思いやり」についてそれぞれに思いをもっています。それぞれに、学校で経験したこと、家庭で教えられたことを知識として身に付けています。しかし、人との関わりの中で具体的にどう行動すればよいのか、よくわからない子どもが多くいます。

そこで、今回の全校集会では、「言葉の大切さ」について伝えました。

子どもたちの日々の生活を見ていると、ドキっとする場面が多くあります。

△ 人の容姿や行動の特徴などをとらえ、おもしろ半分が悪口を言って笑う。

△ 人とのかわりで気に入らないことがあると、腹いせに汚い言葉を吐く。

「うざい!」「きもい!」「ばか!」…(※文字にするのも心が痛みます)

集団で生活すると思い通りにならないこともあり、感情的になります。

しかし、トゲのある言葉を投げつけられるお友達の気持ちを考えたら、もし自分が言われるとしたら…と立ち止まって考えることを教えたいと思います。

おはよう!

あそぼう!

ありがとう!

げんき?

どうしたの?



だいじょうぶ?

ごめんね

いっしょにやろう

てつだうよ

またね!

相手のことを思いやるとか、大切にすることのまず手はじめは、ふわふわの言葉を遣うことだと考えます。人とのかわりは言葉のやりとりが基本です。自分もお友達も心があたたかくなる、うれしくなる言葉をかかわすことで、「自分が大切にされている」と感じるはずで、心が穏やかな時には、自然とこのような言葉が出てきます。また、ふわふわ言葉を使うように気をつけると、自然と心も丸くなるように思うのです。

ひとつのことば

北原白秋

ひとつのことばでけんかして
ひとつのことばでなかなかおり

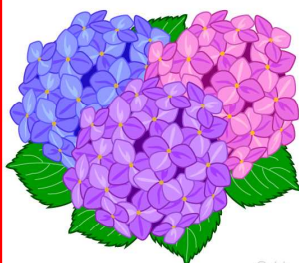
ひとつのことばで頭が下がり
ひとつのことばで心が痛む

ひとつのことばで楽しく笑い
ひとつのことばで泣かされる

ひとつのことばはそれぞれに
ひとつの心を持っている

きれいなことばはきれいな心
やさしいことばはやさしい心

ひとつのことばを大切に
ひとつのことばを美しく



もう一つ考えたいこと…

子どもに教える時に大切なのは、大人の言葉遣いです。私たち教師や親が、

- ・感情にまかせて言葉が汚くなっていないか、目くじらを立てていないか
- ・自分は冗談のつもりでも、相手を傷つけるような言葉をつかっていないか

自分の言葉遣いや態度を見直したいものです。大人の様子を見て、子供が無意識に同じようなことをしているのではないかとすれば、「美しい言葉をつかってみせる」「笑顔でのさわやかなあいさつの手本を見せる」大人の責任はとっても重大であると実感します。もしかしたら、無意識のうちに人を傷つける方法を大人が教えているのかも知れません。子どもに言うだけでなく、石司自身の言葉や態度もあらためて見直してみよう…そう考えるこの頃です。

2年ぶりの水泳（水遊び）学習

プールで元気に活動する子どもたちの姿は、実に美しくエネルギーにあふれています。見ているこちらが、元気づけられます。感染症予防を徹底するために、

☆着替える場所を広く ☆活動内容の工夫（接触を避ける） ☆活動後の消毒

などに十分な配慮をしながら実施しているところです。子どもたちも、予防することの大切さを理解し、しっかり守れていることが素晴らしいです。今年は、感染症予防の観点から、どの学校も例年よりも水泳学習の時間数が少なくなっています。楽しみ



ながら水に慣れる活動を経験させたいと考えています。

水泳の学習がある際には、お子様の朝の健康観察を特に行っていただきますようお願いいたします。また、水着やタオルの準備でご負担をおかけします。よろしくご協力をお願いいたします。